

令和3年度第一回学校運営協議会 議事録

校名	府立東淀川支援学校
校長名	太田正義

開催日時	令和3年 7月9日(金) 10:00~12:00
開催場所	大阪府立東淀川支援学校 図書室
出席者(委員)	奥山委員・岡委員・末浪委員・中上委員・藤澤委員
出席者(学校)	太田校長・辻上教頭・岡崎教頭・加藤事務長・土井首席・石田首席・北條教諭・小野教諭
傍聴者	なし
協議資料	次第、委員名簿、学校運営協議会実施要領、傍聴に関する要領、令和2年度学校経営計画及び学校評価、令和3年度学校経営計画、ICTを活かした授業づくりについて、本校のキャリア教育について、教科用図書、学校要覧、学校案内
備考	

議事等(次第順)	
委員紹介、会長選出、学校経営計画に関する事項、教科用図書の紹介	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
校長	あいさつ メンバー紹介
教諭	ICTを活かした授業づくり(別紙参照)説明
教頭	資料説明
校長	会長選出 奥山会長に決定 ・令和3年度学校経営計画について ・センター的機能、ICT機器の活用、高等部コース制、校務効率化、キャリア教育等スライドにて説明。 ・平成27年度より毎年児童生徒の増加傾向 現在約270名 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の様式を変更 ・センター的機能としての地域支援については、コロナの影響があり活動停滞 ・交流及び共同学習については、小学部19名、中学部19名の居住地校交流希望がある ・効率化による働き方改革を検討
教諭	・「本校のキャリア教育について」(別紙有り)スライドを活用して説明
委員	(問)・センター的機能とは具体的にどのようなことか?
校長	・地域支援—小学部・中学部に支援教育リーディングスタッフを配置し、地域の小学校、中学校、高校から依頼を受けて指導方法や助言などを行ったり、研修計画を立てて動画配信を夏季休業中に行ったりし、支援学校としてのセンター的機能を発揮すべく、本校の役割として取り組んでいる。

委員 校長	(問)・中期的目標 中度、軽度生徒の就労を目指すのは何%なのか？ ・昨年度 10 名就労している。 ・本校では開校後コース制を作り、多様な進路先に対応している。 ・卒業後の学びの場、自立訓練校などの希望もある。 ・(就労が) 保護者の希望として多いわけではないが、就労の希望者は毎年あり、希望する人にはできるかぎり就労させたい。
委員 校長	(意見)・学校は様々なすべきことがおりてきて、やっていかなければならず教育や指導など大変だと思う。 ・卒業後の進路は様々で、必要とされることは生活リズムや言葉遣いなどライフキャリアである。 ・就労のみを目標としているのではなく、キャリアの積み重ね(発達)を目指している。
委員	(意見)・施設では自分で自分のことを伝えることを大切にしている。 (問)・子どもは1歩後退2歩前進などところがあるが、キャリア教育発達段階表の右肩上がりの意味は？
担当教諭	・発達段階表は今の姿と目標とする姿を比較しつつ、成長していく流れとして右側に進むことで育成していく力が伸びていく内容になっている。成長の上がり方を示している。
委員 校長	(意見)・就労 30%を目指すとしても、個々の生徒の状況によって(就労)が合うか否か違う。 ・就労率は年度によっても違う。
委員 委員 校長	(意見)進学について、中学校の支援学級の知的障がいの生徒が普通高約 5 割、支援学校約 2 割強、通信制約 2 割弱 (問)・高等学校からの相談や質問などあるのか。 ・高等学校からの相談は少ないが、本校高等部との連携や交流及び共同学習などは積極的にやっている。
委員 委員	(意見)・高等学校には通級制度があるが支援のノウハウがないのでは。 (意見)・支援学校より高等学校へも発信をすることがよいと思う。広い視点でいうとセンター的機能。
委員 校長	(意見)・高等学校のアプローチも必要。制度の使い方が周知しきれていない。依頼や現実的な活用に至っていない。理想論になるが、高校に声をかけることが大切。 (問)・授業を通じた指導力の向上として(昨年度)学校教育自己診断の教職員からの肯定的評価 78%から今年の取り組みとしては？ ・キャリア教育、個別の教育支援計画・個別の指導計画、自立活動の指導などを通しておこなう。また、今年度より個別の教育支援計画・個別の指導計画の様式を変更して取り組んでいる。課題点などもあり、仕事量の増加など一部不満もあるが、定着するまでに時間がかかると思う。
委員 校長	(問)・個別の教育支援計画は、要点が書けているか、そこをどう取り組むか。

委員	・その点の改善については本校では支援部が担っている。
校長	(意見)・うまくそこを底上げできるようなシステムを望む。
委員	・福祉人材に関しても本校では多様な支援を活用している。
委員	(問) 個別の教育支援計画は卒業後も活用していけるのか。
委員	(意見)・本人、保護者のものなので卒業後も活用できる。
校長	(意見)・私の勤める学校では東淀川支援学校と交流学习を行い、子どもたちの障がいを持つ方々への見方がかわったと思う。これからも地域交流、相互交流としてよいものにしていきたい。
委員	・今年度はぜひこれまで以上に（コロナ感染対策）オンラインを活用して交流および共同学習を充実して行いたい。
校長	(問)・オンライン授業はできているのか？
委員	・様々なシステムが動き始めたところ。昨年度、中島中学校とのオンラインでの交流及び共同学習を予定していた。
教頭	(意見)・支援学校におけるギガスクールの取り組みを充実させるためには、まずは教員の利用する ICT 環境を充実させる必要がある。学校単位で予算獲得は困難かもしれないが、協議会委員として大阪府下の学校（教員）に対する ICT 環境の充実を望む。
	教科用図書について説明。
	最終あいさつ
	次回の予定説明。

次回の会議日程	
日時	令和3年11月18日(木)(予定)
会場	大阪府立東淀川支援学校